

もっとも厳しい講座？「神奈川トンボ調査隊」の活動：年間講座の試みから

かるべはるき
荻部治紀（学芸員）

昆虫担当学芸員として、開館以来同僚の高桑学芸員とともに「昆虫採集入門」など、様々な講座を試行してきましたが、気になった点があります。それは、昆虫に興味があり、講座の時には一生懸命がんばる、でも普段は調査も採集もしない、という方が多いことでした。意外と期待していた「虫にはまって抜け出せなかった」ような方は少なかったのです。

それならばいっそのこと、調査もまとめも



図1 池の中で調査中の小学生隊員。

専門家なみにやってもらう講座を開催したらどうなるのだろう、という試行がこの「神奈川トンボ調査隊」でした。この講座では、さまざまなスキルを上げるために、年4～5回の共通の野外実習も行いますが、基本は、「自分で決めた調査地で、自力で調査し、調査結果をまとめて報告する」というものです。やることは、研究者と一緒にですで大変です。しかも、参加者は昆虫に興味はあるけど、こういう調査は初めて、という方がほとんどでした。初回の講座でトンボ採集のグッズや、標本の作り方などを実習し、以降はそれぞれのフィールドでのがんばり次第です。つまり、自分が調査に行かなければ実績はあがらず、まとめようにもネタがないわけです。もちろん、毎回の講座で、さまざまな種の生態や探し方などの調査法は学べますし、メールを活用して、普段からいろいろなトンボ情

報を流すようにもしてみました。

参加者の方々も、最初とはまどいも多かったと思いますが、徐々に勘所がつかめてきたようで、「〇〇で××サナエをとりました！」のようなニュースが入るようになりました。夏には、それまでの採集品を持ってきてもらって、顕微鏡と検索表を使って種類を調べる個人授業もしました（*事前に自分で名前はつけてくる）。最初は同定間違いもありましたが、こうした体験からどんどん知識も増えていったと思います。冬には、一年間で積み上げた調査結果をしっかりとめて皆の前で発表していただき、最後にはレポート提出まであったという、下手な大学の授業より厳しい？ハードな講座でした。

この講座は2年目に入り、より多くの経験を身につけたみなさんは、いろいろな新発見もしています。今度は、専門の雑誌への投稿が次のステップです。一緒に県内のトンボの調査をしていく頼もしい仲間が増えたこと、参加者の方はちょっとしたサポートでどんどん成長していくこと、僕にとっても楽しい一年でした。

来館者や学芸員とのコミュニケーションにより発展する展示解説

さとうたけひろ
佐藤武宏（学芸員）

当館では、2002年度から、展示解説ボランティア制度を設け、来館者に対する解説や、質問への対応などを行なっています。現在、約50名の方がボランティアとして登録し、年間（開館日数は約300日）のべ約400名の方が展示解説を実施しています。

展示解説のために、館が用意した簡単なマニュアルもあるのですが、それよりも、ボランティアの皆さんには、自分の興味のある分野について、自分の言葉で解説するように、お願いしています。なぜなら、ボランティア一人ひとりが、自分の好きなこと、自分が学んでわくわくしたことについて、自分なりに来館者に伝えてくれるほうが、生き活きたメッセージとして来館者に伝わると考えているからです。

展示解説をしていると、たまたま展示を見ていた専門家や、理科の教員などに遭遇し、より詳しい知識を逆に得ることもあります。また、一般の来館者から、解りにくい専門用語や言い回しについて指摘を受けることがあります。時には、標

本の産地にまつわるエピソードや、その場所を旅行で訪れたときの体験談を聞くこともあります。こうして、来館者とのコミュニケーションによって、展示解説は日々発展をしています。

一方、館では年に数度、ボランティアを対象に、学芸員による展示解説ミニレクチャーや、特別展展示解説（図1）などを実施し、展示物やその学術的背景についてより深く知ってもらう機会を設けています。また、ボランティアの連絡ノートを用いて、資料に関する質問を随時受け付け、学芸員はそれに対して、回答と、解説や参考資料の紹介を行なっています。これらの質問や、関連する情報、特別展や展示替えに関する情報などは、毎月1回、定期連絡によってボランティアに届けられます。学芸員とのコミュニケーションも、展示

解説の発展の動力になっています。

展示解説ボランティアに登録すると、学ぶ楽しみと伝える喜びの両方を満たすことができるうえ、館からの情報をより多く受けとることができ、館を最大限に活用するヘビーユーザーになることができる、というメリットがあります。学芸ボランティアや友の会会員を含め、多くの方が展示解説ボランティアに登録して下さることを期待しています。



図1 ボランティアを対象とした学芸員による特別展の展示解説。